



東京と栗山を 天秤にかけて

ひしたに
#のち
あひ
菱谷 昌弘さん(44)

大学卒業後は札幌に住み、ドラマーとして音楽活動が続いていた時、東京の音楽事務所から声がかか

ジャズが好きな父親が農業を営む家庭で、音楽が身近にある環境に生まれ育った菱谷昌弘さん。姉が中学の吹奏楽部でパーカッションを始めたのをきっかけに、ドラムに興味を持ちました。中学生の時、父親がドラムセットを買ってくれ、中学から、仲間とバンドを組んで大学を卒業する22歳までの学生時代を栗山で過ごします。

幼い頃から音楽がある環境

り上京します。「札幌にいた頃は、北海道から出ることは考えていませんでしたが、自分のドラマーとしての可能性を確かめたかったし、両親の反対もなかったたので、東京に行くことを決めました」と話す菱谷さん。

都会での暮らし

菱谷さんは「東京は、とにかく人もモノもたくさんで、お金さえあれば、何でも手に入り不便さはありません。都会は人が多すぎて、他人に関心がないし、代わりはいくらでもいます。一方で、地方は、お金がなくてもアイディアや工夫で何でもできる。他人が気になる人が多く、いい意味でも悪い意味でも、噂話もすぐに広まる。でも、まちを盛り上げようとする人が多い。人との繋がりが深い」と語りま

「姉から、戻って来ないかい?」と言われ、栗山の農業を考えたとき、将来に魅力を感じました。日本の食料自給率を考えても、農業の価値は今後上がると思う、東京と栗山の暮らしを天秤にかけて、栗山に帰ってきました」と言います。そして町の住宅取得支援制度を利用して、町内に住宅を取得します。

農家に生まれ、手伝いはしましたが、就農するとなると全くの素人だった菱谷さん。苦労もありましたが、就農して5年が経過しました。東京で活動していたバンドには今も所属し、年に十数回は東京、道内でもライブ活動していますが、「職業を聞かれれば、農業ですと答えますね」と菱谷さんは、言います。



最後にドラムを演奏してくれた菱谷さん。戻って来るにあたって両親と姉には感謝していますと話していました。

若い人にメッセージ

まずはやってみる、ということをお勧めにしたいです。これは両親から言われた言葉でもあります。分らないくても今自分にできることを考え、動いてみる。そうして繋がった点の積み重ねが、色々なことに生きてくると思っています。

私自身、Uターンして動き出したからこそ、人と環境に恵まれた面白い展開がありました。難しく考えず、まず動いてから考えるのも悪くないと思います。



特集

私たちが、ふるさとに 帰ってきました!



地方の人口減少が深刻な中、本町を含む多くの自治体が少子化対策や、移住・定住施策に取り組んでいます。

移住施策によって、栗山にゆかりのない方が本町を好きになり、移住されるのは、とてもうれしいことです。

一方で、栗つ子たちの進学などによる転出は避けられません。若者が就職先に栗山町を選ばない理由は何でしょうか。希望する職種の求人が少ない。賃金が低い。公共交通が弱い。若者が楽しめる場所が少ない。親が栗山町での就職を望まないケースもあるかもしれません。

しかし、進学や就職で一度町を離れた栗つ子が栗山町に戻ってくれたら、移住による人口増とは違う喜びがあるのではないのでしょうか。事業の継承や、都市部での経験を生かした新しい産業の創出など、若い世代による地域活性化にも期待できます。

そして、帰ってきた栗つ子にとっては、土地勘があつてすぐになじめる。両親や親戚が住んでいる。友人や知人が多く、人との繋がりがや交流を楽しめることなども考えられます。

今回は、そんな町内で活躍するUターン者の声をお聞きました。

家族の力に なりたくて

吉田 夏紀さん (32)



驚いていたようです。孤独を感じることはなかった都会暮らしですが、慣れ親しんだ調味料や、北海道の新鮮な食材が手に入りやすく恋しかったそうです。「帰省した栗山から戻る時、母がいつもおにぎりを持たしてくれ、それを飛行機の中で泣きながら食べていました」と、話す吉田さんに、鹿児島で店長を勤めた新店舗が軌道に乗ったところで、転機が訪れます。

札幌の暮らしに慣れて

高校生までを栗山町で過ごした吉田夏紀さん。札幌の大学を卒業後、全国展開している道内企業に就職。最初の勤務地の東京で5年勤めた後、鹿児島に新店舗を出す担当に抜擢されます。「進学するとき、早く札幌に住みたいと思っていました。勤務地が東京になった時も、特に抵抗はなく、遠い将来のことは全く考えていませんでした」と吉田さん。

あまり人見知りしないという吉田さん。友人に東京で隣人とおかずのお裾分けしていたと話すと、みんな

家族と離れて暮らして

「祖母が体調を崩し、危険な状態になったのですが、私は鹿児島に住んでいて簡単には帰れません。その時に、離れて暮らしていると家族の力になれないんだと思いました」と、話す吉田さんは、祖母が亡くなった後、北海道に戻る決断をします。また、同時に結婚を決めた吉田さ

んは、ご主人の希望もあり、栗山町の空き家バンクで中古住宅を探します。「夫の仕事は完全テレワーク勤務なので住む場所はどこでも良かったのですが、中古住宅を自分でリフォームしたいという夢と、2人ともギターをやっているの、自宅でもギターを演奏できる環境を希望し、栗山町に住宅を購入しました。ウエディングフォトは、子どもの頃から好きだった栗山ダムで撮影しました」と、写真を見せてくれました。



おいしいものを食べたい

Uターンを決めたもう一つの理由は、「食」だそうです。「人の体は食べ

中で、自分の将来について向き合った結果、約10年ぶりに栗山町へ戻る決意をします。

故郷を離れた故の気づき

「戻ってきてから驚いたのは、慣れ親しんだはずの町の景色が、以前と違って見えたことです。学生の頃は『何もない』と思っていた風景の中に、豊かな自然や、まちを思い奔走する人たちの姿に気づきました」と語る木藤さん。朝早くから農作物を収穫する方を見て、美味しい食べ物が食べられること気づき、近くに住むいきものを観察できる施設があるのは、自然を守り未来につながる活動をしている方がいることに気づいたそうです。また、街角で整備されている花壇



いつも言われていた吉田さん。「大都会でコンクリートに囲まれ、夜中まで開いている店や、たくさんの人を見ていると息苦しさを感じていました。花粉症を発症したのは東京でしたし、何を食べるかは重要だと思いました」と話します。

「戻って来る時、仕事中心の生活だった私は、キャリアを捨てて、仕事を辞めることに葛藤もありました。でも、弟がわりと自由に暮らしているのを見て、転職する決断ができました。私の代わりはいくらでもいると思えたし、不安だった収入面も、今の方が経済的には良いと思います」と吉田さん。

「都会の生活に疲れていたのかもしれない」と話す吉田さんは、現在、購入した中古住宅を半年ほどかけて夫婦でリフォームし、仕事のかたわら野菜や花を育て、好きなギターを弾きライブ活動もしています。

また、高校生までやっていた剣道でお世話になった指導者の方に誘われて、剣道連盟の手伝いや、町のスポーツ推進員もしています。「実家とも近く、友人が自宅に集まって来てくれて、好きなことを楽しめる落ちついた暮らしができています」と、笑顔いっぱい話してくれました。

を見れば、花いっぱい運動を通じて地域の皆さんが協力して彩っている姿を感じることができ、地域イベント開催の裏で、汗を流す方々を目にし、栗山町らしい温かさを感じたそうです。

「振り返れば、20代の寄り道は、決して無駄ではありませんでした。札幌市と小樽市での経験があったからこそ、栗山町の良さを再発見することができました」と話します。

Uターンという選択肢

退職して地元に戻った木藤さんは、学び直すために栗山町図書館に通いました。一般常識や公務員試験の勉強をし、1年半前に栗山町役場へ入庁しました。配属された企画財政課の仕事は、地域のイベントやまちづくり、都市基盤整備、ふるさと納税など多岐にわたります。

木藤さんは、「町で暮らす人の生活に関わる重要な仕事に携わることができて光栄です。栗山町が将来について考える人に寄り添う環境となるよう、私自身が土台となるよう努めていきたいです。Uターンを考えている人は、気軽に声をかけてほしいです」と話していました。

栗山町以外の生活を経験

大学入学をきっかけに栗山町を離れ、札幌市で生活を始めた木藤慶太さん。大学卒業後は、市内で小売業の会社に就職し、札幌市と小樽市での生活を経験しました。就職先を札幌市内で探した理由は、市内に本社を置く企業が多く、求人数が多いためだったと言います。「栗山町を離れてからの10年間は、新たな環境で新しいことに挑戦することが楽しく、がむしやりに目の前のことに取り組むような生活を送っていました。将来のことよりも、今を楽しく過ごすため

自分が求めているモノ

に活動していた気がします」と話す木藤さん。しかし、友人の転職や感染症の流行など、色々な刺激を受けた28歳の時に、「このまま、この生活を続けていくのだろうか?」と考え始めました。

「この先、自分が何をしたいのか?」の答えがすぐには出せなかった。と語る木藤さんは、明日、一カ月後、半年後、一年後と段階を踏んで分けて考えるようにしたところ、重要になるものは、「環境」だと気が付いたそうです。その「環境」とは、人とのつながりが適度な距離を保って存在し、自分のやりたいことができる場所のこと。将来のことを考えると、しっかりとした土台が必要だと感じたと言います。町外で住み、楽しく

将来を考えたら 答えはUターンだった

木藤 慶太さん (30)



栗山町は、春の老舗まつり、よきこいソーランのチームも集まるくりやま夏まつり、露店が200店以上出店される秋まつりのほか、イベントも多い賑やかなまちです。

そして、国蝶オオムラサキが舞い、蛭が生息するハサンベツ里山地区など、豊かな自然があることは、大きな財産です。この自然を町民の皆さんが、さまざまな活動を通して守っていることも、かけがいのない財産だと



栗山町長 佐々木 学

思っています。

人口減少に歯止めがかからない昨今、町ではさまざまな施策を展開するとともに、移住後も栗山町で楽しく幸せに暮らしていただけるよう、充実したサポート体制を構築しています。一例として、若者が転入する時に活用できる支援制度の創設や移住者との交流会に参加した際、移住者から「栗山町に住んで本当に良

かった」などと、直接お話を伺うことができ、大変うれしく思いました。

また一方で、栗山町で生まれ育った方が、栗山町に戻って活躍されることも、非常にうれしいことです。このことは、「ふるさととは栗山です」のキャッチフレーズのもと、これまで行ってきた自然教育をはじめ、乳幼児期のサポートや児童福祉施設の充実など、次代を担う世代への施策に力を注いできた成果として捉えています。

これまで蒔いてきた種が、確実に実を結ぶよう、これまで以上に、移住者の視点に立った効果的な施策を展開してまいりたいと考えています。

そして何より大切なことは、すべての町民の皆さんが栗山町で暮らす幸せを実感し、ふるさとを愛し続けることのできる環境を創り上げることが重要であると考えています。そのことが定住やUターン、移住者の増につながるものと確信しています。

私たちのふるさと栗山には、町民の皆さんとともに築き、創り上げてきた多くの価値ある地域資源があります。今後、さらに磨きをかけるとともに、栗山町の魅力を発信し続けてまいります。

取材を終えて

移住には、地方での新しい生活を重視するUターン、故郷に近い地方都市に移るJターン、そして、故郷に戻るUターンと、いろいろなかたががあります。人は、年齢と共に、帰郷欲求が強まる傾向があると言われており、定年後に都会暮らしから地方暮らしを選択する人も増えています。

今回の特集で取材に応じてくださった皆さんは、一度離れたからわかった栗山町の魅力を話してくれました。もちろん、地方での暮らしは、不便な面もありますが、自然豊かな栗山町で、のびのびと育った栗っ子は、緑や土、畑や田んぼが身近にある環境が落ちつくのかもしれない。進学などで転出した栗っ子が、心の中にいつも楽しく過ごした思い出を残し、胸を張って「ふるさととは栗山です」と言えるまちを、行政はもちろん町民みなで目指していきたいと、心から思いました。

町民の幸せを一番に

日頃、移住相談を受ける中で、最近、地方回帰の傾向が強まっていると感じます。移住相談者の年齢層は、中高年が多くを占めています。どの世代でも、地方に新たなステージを求めている方が多いです。

日本では、最初の就職先に生涯勤める方がほとんどでした。しかし今は、転職に対しての抵抗が減り、むしろ転職して、違う分野で働くことでスキルアップし、いろいろなステージで活躍したいと考えている方が増えています。

また、家族と共有する時間を増やしたいと考える方も多いです。仕事中心の生活をするのではなく、ゆとりのある生活を望む結果、地方や故郷に目が向くのかもしれません。こ

移住者の皆さんを応援しています。



町定住推進課長
本田 徹

れは、コロナ禍に、在宅勤務という業務形態が現れたことが大きな要因となつていると考えます。栗山町にも、都市部から転職せずに転入された方は少なくありません。中には、Uターン移住支援金の支給対象になつた方もいて、地方へ住むことの後押しになっていると思います。

当課では、移住を考えている方に栗山町の魅力や情報を伝えています。Uターンの方は栗山町のことを知っていますので、相談対応はありませんが、就職に際しての相談を受けられることがあります。例えば、一般的な求人情報にはない短期間労働や、季節雇用などを望まれた場合は、関係機関と連携し、就職のお手伝いをしています。農業関係の仕事希望する方も多いです。

地方に住んでいても都市部にいるのと同じような仕事ができるようになった今、仕事以外の何を重視するのかを考えて、住むところを考える時代になつたのかもしれません。

定住推進課では移住コーディネーターも配置していますので、ぜひお声がけください。

【問い合わせ】

定住推進課(役場庁舎二階)
☎7521

移住者(Uターン者など)が受けられる支援制度

◆若者移住促進助成制度 (菱谷さんや吉田さんも活用しました)

40歳未満、もしくは中学生以下の子と同居している方が、栗山町に移住し、町内に住宅を取得した場合、その購入費の一部を助成します。

・新築住宅取得費用 **80万円** (加算あり) ・中古住宅取得費用 **最大30万円**

・中古住宅リフォーム助成 **最大30万円**

※中古住宅を取得し、町内事業者でリフォームした場合

◆Uターン等促進奨学金返済助成

27歳以下の方が栗山町に就業(定住)した場合、奨学金の返済額の一部を助成します。

・一年の返済額の2分の1 (上限**15万円**) を3年度

◆UJターン移住支援金

東京23区在住または通勤者が北海道で、就業・起業・テレワークなどにより栗山町に移住した方に支援金を支給します。

・単身世帯 **60万円** ・世帯 **100万円** ※18歳未満の家族加算あり。

